

| | | | | | | | |
|------|-------------|------|----|------|---|------|------|
| 科目名 | 社会科・公民科教育法Ⅱ | | | | | 単位 | 2.0 |
| 担当教員 | 木見尻 哲生 | | | | | | |
| 授業形態 | 講義 | 開講期間 | 後期 | 配当年次 | 3 | 授業番号 | 4371 |

●授業のテーマ

社会科および公民科の授業を実践するための基礎的な力量を獲得する

●到達目標

社会科・公民科の学習指導案を作成できる。

模擬授業などを通して、実際に授業を担当する力量を身につける。

●学習内容(授業概要)

「広い視野に立って、社会に対する関心を高め…民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う」ことを目標とする中学校社会科及び高校公民科の授業を実践する上で求められる、基礎的な知識、教育方法、学習指導案の作成、教材の利用法などを学びながら、「教えること」と「学ぶこと」への理解を、体験を通して深めることを目的とする。その際、単に知識を身につけるだけでなく、実際に授業を実践するために必要な能力を高めることを目指して、模擬授業など受講者の主体的な参加を重視する。

●学習内容(授業計画)

1. 社会科とは—学習指導要領の検討
2. 中学社会科の歴史と学習指導要領の改訂
3. 教育改革の動向と社会科の課題
4. 地理的分野
5. 歴史的分野
6. 公民的分野
7. 「主体的な学習」のための工夫
8. 実践事例から学ぶ
9. 学習指導案—作成の実際
10. 学習指導案—批判および討論
11. 模擬授業(1) 担当=学生1、学生2
12. 模擬授業(2) 担当=学生3、学生4
13. 模擬授業(3) 担当=学生5、学生6
14. 模擬授業(4) チームティーチング
15. まとめ

●準備学習・事後学習の内容

完成度の高い学習指導案を目指して、改善すべき点を考えること。

予め、授業で取り上げたテーマについて、身近な事例を調べるてくること。授業後はノートをまとめること。

●成績評価方法・基準

授業の参加状況(出席・ミニレポート)50%、試験50%

●テキスト（必携）

≪No.1.≫書籍名：『高等学校学習指導要領解説—公民編』、著者名：文部科学省、出版社：教育出版、販売先：生協、備考：2010年

≪No.2.≫書籍名：『中学校学習指導要領解説—社会編』、著者名：文部科学省、出版社：日本文教出版、販売先：生協、備考：2008年

●参考文献／その他

●履修上の注意

特になし。